

体得（身に付く）の
ステップ
～やらされるの要因は？～

特定非営利活動法人やお市民活動ネットワーク
副理事長 新福 泰雅

炎の講演家 鴨頭嘉人 (かもがしら よしひと)

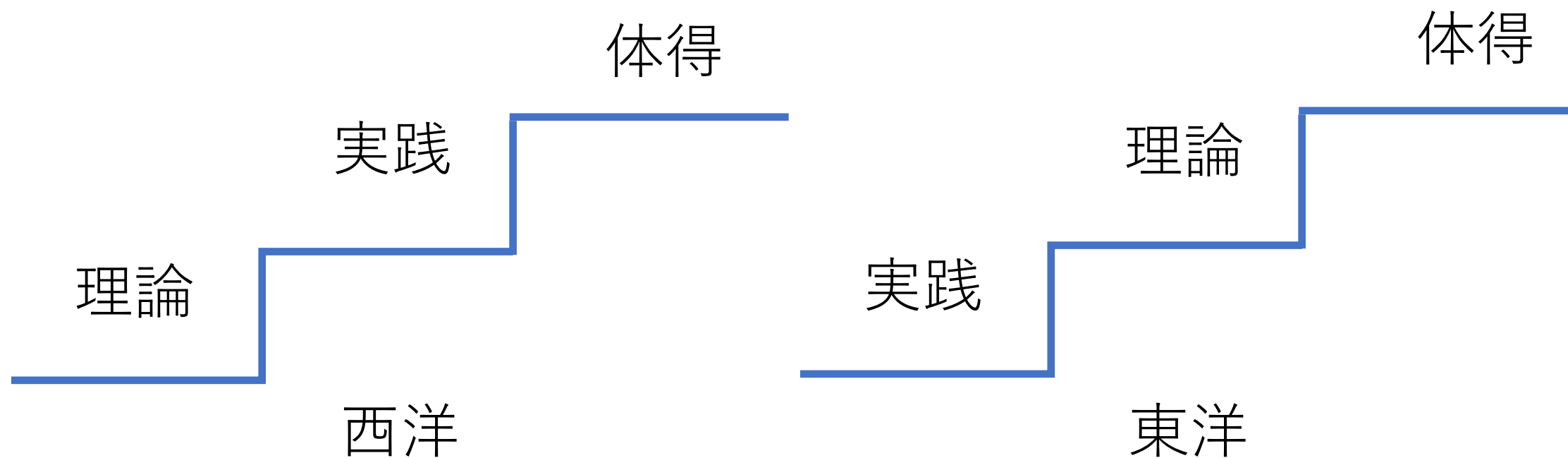
- 日本マクドナルドで勤務後、独立開業し、年間300本以上の講演を行う。
- 講演の様子等をYouTubeで公開
- 自己啓発系でYouTube登録者数100万人は快挙
- 西野亮廣 (あきひろ) 氏・中田敦彦氏ともYouTubeで共演
- (株) 東京カモガシラランド経営
- 練馬区倫理法人会相談役



出典 (画像) : インターネット「ボッチ・ブログ」
<https://shogunbocci.com/275#toc11>

人が体得するステップ（西洋と東洋の違い）

- 2017年に八尾でセミナーの講師でお招きした時の講演の話。



頭→体感・体験・心で認識？

体感・体験・心→頭で認識？

市民活動は、以前は東洋的な体得の仕方が多かった（まずは、やってみる！）
相手にとっては「やらされる」事に抵抗もあり、担い手づくりに至らなかった面も。

所感（市民活動の体験者として）

- 「やらされる」事への許容度・忍耐度が世代・時代によって落ちている。最近は個人差も大きくなっている気もする。
- 「やらされる」事も共感すると「したい」になる。一度、受け入れて、やめることもある。「やらせる」側は自己実現欲求かも。
- 市民活動といった公益活動は、マズローの欲求5段階説のさらに上の「自己超越」の領域だと感じている（中間支援は特に）。
- 「自己実現」「奉仕」の分別（ふんべつ）が付きにくい。頭で理解しても心では整理できない事（葛藤）もあるのでは。
- 辛抱・忍耐が日本文化の美学になっているかも。無償性の尊さも。
- 自分を犠牲にして全体を優先する全体主義は違うが、少し社会や人類のお役に立ちたい想いが最優先で考える事が大切かな。